第22期第5回理事会議事録

日　時　昭和59年5月23日（水）18:00～20:30

場　所　気象庁観測部会議室

出席者（常任理事）岸保，松本，嶋村，杉村，内田，松野，竹内，河村，増田，村山，田宮

（理事）菊地，柳原，菊池，武田，中島，山元，坂上

（監事）関根，荒川

議　事

(1) 昭和59年度総会の議題等について

ア．理事長のあいさつについて，①国際学術研究交流委員会の発足，②財政事情，学会会費の値上げの事情，③学術会議のその後の経過，④機関誌の充実化，⑤学会員数の動向を報告する旨説明があった．これに対し，秋に中国に代表団を派遣することの要旨を加えることが提言され，交流委員会の発足の中でふれることとなった．

イ．昭和58年度事業経過報告（案）について

資料の中で，主な事項について報告することで了承された．「教育・普及の活動」の項に，「(5)科学朝日，気象学最前線の連載が24回で終了した．」を加える．

ウ．昭和59年度事業計画（案）について

59年度予算(案)と関連することから，この説明と一緒に行うことで了承を求められたが，予算（案）と切り離すべきだとの意見があって，その骨子を総会で説明することとなった．

エ．昭和59年度収支決算について

会計担当理事から，資料に基づいて，主だった科目の増減の要因について説明され，異議なく承認された．

オ．昭和59年度予算（案）について

会計担当理事から，資料に基づいて説明された．収入の部では，会費値上げの1/4を計上，予稿集及び投稿料の収入増はそれぞれ値上げしたことによる増収を見込んでいる．支出の部では，管理費では退職金，選挙関係経費を見込んでいるが前年度並である．事業費では，値上げをする割には，それ程の予算額となっていない．これは値上げによる増が約550万円位で今年度はその4分の1の130万円であることによる．総じて前年度並となっている．今後企業努力によって，機関誌の充実を図っていくこととしている．かようなことから，「天気」は本文60，広告10ページで年840ページ，「気象集誌」は年900ページで計画，国際学術研究交流委員会の予算は25万円とした．年度の決算時に増額するよう努める予定である．また，今年度の予算案ではその建て方を変更した点について説明された．

これに対して，今回の予算案は，値上げを見込んでのものであり，値上げ案の承認が先決で，値上げの理由等を充分に説明する必要があること，印刷製本費では前年度並となっているが，企業努力があったことによるためで，この点を説明に加えること．また，雑収入の増は投稿料の値上げだけでなく，受取利息もあることを説明すること．勘定科目の「気象研究所研究報告」の名称は改めた方がよいことなどの意見があった．

この結果，これらの点を踏まえて，総会で説明することとし，59年度予算案が原案どおり承認された．

カ．日本気象学会定款の一部変更案の承認について庶務担当理事(代理)から，一部変更案が朗読されて，審議された．

これに対し，値上げの20%という理由は，ある程度理解されるとしても，値上げしたことによる大枠のアイデアを説明する必要があろう．会員の増は理事長の説明によると横ばいの傾向とのことで，会費の増収はそれ程見込めないのではないか．値上げの理由では，会員数の動向，「気象集誌」経費の年々の増加傾向，物価上昇が年4%として，55年以来5カ年の据え置きで，物価の点でも20%となる．これらの点を良く説明をすることなどの意見があった．

理事会としての賛否を挙手で求めた結果，出席者全員（18名）の賛成及び欠席者1名の文書による賛成があり，原案どおり承認された．

キ．その他

総会の議題その他の項で，「日本学術会議の近況についての報告」をすることが承認された．

(2) 昭和60年度，春・秋大会の当番支部について

庶務担当理事から，資料に基づいて，これまでの慣例について説明された結果，次のとおり，当番を

お願いすることが決まった.

春季大会は,「東京」で,東京管区気象台担当

秋季大会は,「関西」で,関西支部担当

(3) その他

ア. 国際学術交流委員会のこれまでの活動,計画等について,「天気」に掲載し,会員に周知を図ることとなった.

イ.「第21回自然災害科学総合シンポジウムの開催(昭和59年10月8～9日)」の後援と募集案内の依頼について,「天気」への掲載と協賛が承認された.

ウ.「スーパーコンピューター いかに使うか現状と将来」の講習会(昭和59年7月25～27日)への協賛依頼について,協賛が承認され,講習会の案内は大学等主なところに送付することとなった.

エ.「風に関するシンポジウム」の共催と講演募集の「天気」への掲載依頼について,いずれも承認された.

オ.「昭和59年度放射線取扱主任者試験施行について」の機関誌への掲載依頼について,関係が薄いので,断わることとした.

カ.「国際MAPシンポジウム」の共催方の申し入れについて,同組織委員 松野理事の説明があり,共催することが承認された.

キ. 国際気象海洋株式会社からの「天気」への求人広告の掲載方の照合について,通常の広告扱いということで了承された.

承認事項

個人会員 家藤敦章ほか24名,及び団体会員「札幌市青少年科学館」他1団体の新規加入が,それぞれ承認された.

田村専之助 著

「東洋気象学史論叢 全六巻」

会員・田村専之助博士(三島科学史研究所)が,このたび東洋気象学史論叢全六巻を完成された.田村博士は明治43年群馬県沼田に生まれ,勤労学生としてセルロイド工場の夜間工,土木作業員,新聞配達などをしながら,苦学力行ののち昭和10年早稲田大学文学部史学科東洋史専攻科を卒業,当時の中央気象台長・岡田武松博士の勧めと激励により気象学史専門の道を歩むことになった.初めに取り組んだのは朝鮮気象学史であるが,夜学の教師などで生計をたてつつ,日本学術振興会の援助を受けて,毎日6時間,5年間の日数をもって,李朝実録1707巻を読破・抄録した.そしてその後10余年の研鑽を経てとりまとめた李朝鮮気象学史研究により,昭和37年,京都大学より文学博士の学位を受けた.

田村博士は,さらに東洋文庫・内閣文庫・静嘉堂文庫等の典籍を使用して,中国気象学史上・中・下巻を完成,続いて日本気象学史上・下巻へと筆を進めた.これらはいずれも膨大な資料を熟読・駆使した,長い年月のうまざる努力を必要とする労作であり,これを読む者は,まず,著者の学問的情熱に心を打たれるとともに,そこに記された豊富な資料と著書の哲学的考察から,大いに得る所があるに違いない.

いま,この欄の貴重な紙幅を借りて,広く気象学会員に田村博士の労作を紹介するのは,気象学における気象学史は比較的せまい分野であること,著者は在野の高齢の学究であること,労作は著者自身が主宰する研究所の出版で,その配布・流通が,結果的には,かなり限定されていることなどのため,その存在と価値を知る人が少ないためである.現在気象学が,関係諸学界はもとより,社会万般と深いつながりをもって発展しつつあるとき,地道な研究により集大成されたこの一連の気象学史書は,今後とも広く各方面の要望に応えるものと信ずる.

参考のため以下に全巻の一覧を記す.

東洋気象学史論叢全六巻

1. 李朝鮮気象学史研究　399ページ(8,000円)
2. 中国気象学史研究 上巻　811ページ(10,000円)
   中巻　553ページ(8,000円)
   下巻　768ページ(12,000円)
3. 日本気象学史研究 上巻　689ページ(9,000円)
   下巻　956ページ(15,000円)

発行所　三島市光ケ丘 3-26-2
三島科学史研究所

発売所　東京都千代田区神田神保町 1-7
一誠堂書店

(和達清夫・倉嶋　厚)